

10月～12月の 景況調査

“全業種”でマイナス50.5 ～回復が見られ来期も改善の見通し～

舞鶴商工会議所が4半期ごとに実施している景況調査の第3四半期（10月～12月）の結果がまとまりました（別表）。

業況の中で、「全業種」では、前期のマイナス63.5がマイナス50.5となり、13.0ポイント改善しました。

業種別では、前期に比べ機械金属業、建設業、繊維工業、木材業、水産加工業、サービス業は改善。一方で卸売業は横ばいで推移し、小売業は悪化しました。

しかしながら、木材業を除く7業種でマイナスの数値となっており、依然として厳しい状況に変わりはありません。

なお、第3四半期の調査対象は、前期と同じ123事業所で、94事業所（回収率76.4%）からの回答でした。（詳細は舞鶴商工会議所のホームページに掲載しています）

（別表）中小企業景況調査結果 業況DI※1

業種	令和2年度		令和3年度				前期比較	第4四半期 1～3月[※2]
	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月(前期)	第3四半期 10～12月(今期)			
全業種	-46.2	-57.9	-56.4	-63.5	-50.5	13.0	-40.2	
機械金属業	-58.3	-46.2	-36.4	-50.0	-45.5	4.5	-11.1	
建設業	-40.0	-29.4	-35.7	-56.3	-31.3	25.0	-40.0	
繊維工業	-100.0	-66.7	-33.3	-100.0	-66.7	33.3	-33.3	
木材業	-50.0	-80.0	-66.7	-33.3	0.0	33.3	-33.3	
水産加工業	0.0	-100.0	-100.0	-83.3	-16.7	66.6	-33.3	
サービス業	-62.5	-72.0	-62.5	-65.2	-59.1	6.1	-45.0	
小売業	-20.0	-64.3	-60.0	-71.4	-73.3	-1.9	-50.0	
卸売業	-46.2	-46.2	-60.0	-71.4	-71.4	0.0	-50.0	

〔※1〕 DIは景気が「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた指数

〔※2〕 令和4年1～3月期の数値は前年同期と比べた来期見通し

「金融・理財部会」が研修会を開催しました ～税務行政について理解を深める～

金融・理財部会（部会長：仲久保政司京都北都信用金庫常勤理事・東舞鶴中央支店長）は、1月25日、舞鶴税務署の藤川裕史署長を講師に招き、「税務行政の現状と将来像」をテーマに講演会を開催し、部会員12人が参加しました。

藤川署長は、国税局が経済社会の変化に柔軟に対応し、納税者の利便性の向上に務めるとともに、絶えず進化し続ける組織を目指していることを話され、その一つとして税務行政のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の取り組みを解説されました。「デジタルを活用し、あらゆる税務手続きが税務署に来署不要できるように取り組んでいます。その中で金融機関や各関係省庁と協力して納付手段の多様化とキャッシュレス納付の推進に努めています。また、約60%まで伸びた所得税の電子申告率をさらに上げるため、平



金融・理財部会の研修会（1月25日：舞鶴商工会議所）

成31（2019）年1月にはスマートフォン専用システムを導入し、更なる利便性の向上に取り組んでいます」と話されました。

参加者一同、税制の内容について理解を深める貴重な機会となりました。